

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月25日
札幌市立手稲西中学校

1 今年度の学校経営の基本方針

学校、家庭、地域が連携し、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりに向けて、子どもの声や思いを大切にされた学校教育を推進する。

2 今年度の重点推進目標

- ① 学ぶ力を育成する（自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力の育成）
- ② 一貫性・連続性のある教育（「小中一貫した教育」を含む）を推進する
- ③ 豊かな心を育成する
- ④ 健やかな体を育成する
- ⑤ 信頼される学校づくりを推進する

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像 学び続ける子ども 想像できる子ども	A	学校教育全般で、「目指す子ども像」を意識した教育活動が行われているが以下の3点が課題である。 ・予測困難な課題に対して、試行錯誤しながら粘り強く挑戦する。→①、② ・自分の良さを理解し、自分の長所を生かす。→③ ・互いの個性や多様性を認め合う。→③	A	A
学校関係者評価委員による意見		・生徒たちの自ら学ぶ姿、取り組む姿がとてもよく見受けられた。また、生徒一人一人を見取りながら、向上を目指す教職員の姿勢も見られた。今後も教職員が一人丸となって課題を解決し、継続して改善に取り組んでいくことを期待する。 ・諦めない心、自己肯定感、他者理解など、学習だけではなく生活すべてで良い経験（成功することはもちろん失敗してそこから学ぶ）の積み重ねが必要だと考える。そのためには、上記の課題を意識し、「自分が大切」な存在であることを自覚し、大切にされていることを実感していけるよう関わってほしいと感じる。		
①「学ぶ力の育成」に関わること	A	「指導と評価の一体化のための学習評価について」を校内研修のテーマとし、研究授業の実践を通して共通理解を深めた。学んだことを活用する場面を想定させたり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる学習を取り入れたりと授業の改善も進んだ。今後も小学校とも連携しながら、授業と評価の改善に積極的に取り組む。また、学習事項（特に基礎・基本）の定着と個別の学習支援のツールとして、ICTを活用した教育を推進する。	A	A
②一貫性・連続性のある教育に関わること	B	「小中一貫した教育グランドデザイン」を元に、小中合同研修会（計4回）にて協議し、教師間の授業参観と交流、小中児童・生徒の交流を充実させた。「目指す子ども像」を共有しながら、引き続き連携を図っていきたい。	A	A

(様式2)

		<p>キャリア教育を中心とした総合的な学習の時間の改革、また、コミュニティスクール事業では、「横の連携」を強化することができた。その一方で、教職員の負担など、新たな課題も見えてきた。</p>		
③「豊かな心の育成」に関わること	A	<p>日常の道徳授業実践に加え、特別講師による全校道徳を実施（被爆体験語り部、オリンピック・パラリンピック講演会、キャリア教育講演会）、自己の生き方を考えさせるだけでなく、互いの良さを認め合う心の醸成を目指しているが課題も多い。</p> <p>今後も個性や多様性を認め合い、自己肯定感や自己有用感を高め、全ての生徒が安心して過ごせる環境作りを目指す。道徳を中心とした心を育てる教育を続けることも大切だと考える。</p>	A	A
④「健やかな体の育成」に関わること	A	<p>「健やかな体」育成プログラムの内容を共有し、「スポーツフェス」や3年生の「性に関する講演会」、大学と連携した「エンジョイスports」を開催し実践を深めた。また、昨年度に続き、地域学校協働活動推進事業の一環として、「バドミントン教室」を開催し、運動の機会を増やした。</p> <p>今後もこの事業への参加を継続する。また、食育に関する講演会等も検討していく。</p>	A	A
⑤「信頼される学校づくり」に関わること	A	<p>保護者アンケートでは、教育活動全般、学習・評価に関する多くの回答で肯定的な割合が高く推移している。</p> <p>今後も、家庭との連携をより密にし、協力を仰ぎながら情報発信に努め、生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・多忙化、多様化を極める現代にあって、小学校とのつながり、地域とのつながり等、様々な工夫を実践されている様子に、学校運営に関わる者として感謝を申し上げます。 ・面接体験など新しい取組が良かった。今後も、地域を活用、連携した学校づくり、キャリア教育の更なる充実に期待したい。そして、これらの取組が継続していくためには、いかに業務の効率化を図るか（時間をかけず、拘束感なく取り組める工夫）など、教職員の負担についても考慮しなければならない。 ・子ども達が感わず学び続けるためには、総合的な学習の時間、キャリア教育、道徳など、小中がつながっていくカリキュラムが必要である。 ・自然環境、健康、食育など外部からの学びを深めていける方の協力を得て、子ども達に伝えていってほしい。 		